『日本言語文化研究』第16号（2012）

探求！けもの命名学

中川　安奈

Ⅰ－A　研究の動機

私は幼少時より無類の動物好きであった。同時に、以前から友人知人のペットの名前やその由来を聞きながら、「動物の名前とは、何とユニークでバラエティが豊富なのだろう。」と常に感じていた。私が本学のこのゼミで卒業研究といわれるものを作成すべき時期が訪れた頃、「現代日本語の勉強なら、何をテーマにするのも自由」だと先輩方の卒業研究のテーマから知る。

何と恵まれた状況であろうか。好きな勉強を、好きなだけしていいなんて。

私が好きなことは何だろう、と考えたとき、テーマの１つとして、必然的にこのテーマが浮かんだ。

無論、好きというだけでは研究が困難な可能性もある。他に浮かんだテーマは多々あるが、私がこのテーマを選んだ理由は、動物が好きである点、研究自体が極端には困難でない（ただし、このような分野を専門に著した文献が存在しないという意味では困難であった）と考えられた点以外にもう一点、決定打になった理由があった。

それは、「こんな授業が実際に大学にあったら楽しそう」と思えるテーマである点だった。立場を変えると、「もし私が大学の先生なら、こんな授業をしたい」といったところか。これは、私が考える中で最も重要な動機である。人間は、それ以外の動物とこの地球上に共存している。ペットを飼う人もいれば、動物園やペットショップ、ドッグカフェ、サファリパークなどの施設も身近にあり、私達人間はその存在に愛を感じ、親近感を覚える。すなわち、どんな人にも親しみやすく、どんな人も飽きることなく、興味を持って私の発表を聞いたりレジュメを読んでくれたりしてくれるのではないかと思った

のである。

私自身、退屈な授業は嫌いなので、人に研究内容に興味を持ってもらえる点は不可欠であった。タイトルが「けもの命名学」と、大学の授業にありがちなイメージなのもそのためである。まとまりがよく、シンプルで、かつ印象強く「研究分野」風に見せかけるため、「〜学」「〜論」などと素人ながらにいっぱしの教授を気取ってみたかった。

Ⅰ－B　けもの命名学の定義

けもの(獣)…(「毛物」の意)全身に毛のはえている四足の動物。広くは哺乳類動物の総称。(『小学館日本語新辞典』P537/松井栄一編/2005年発行/小学館)。

けもの命名学では、本来の「毛物」の意味の「全身に毛の生えた」動物のみが研究対象。クジラなど毛のない哺乳類や、鳥類・魚類など哺乳類以外の動物、ユニコーン・麒麟など架空上の生物は対象外。またこの意味での「けもの」を象った人形・ぬいぐるみや、キャラクターグッズのキャラクターなども研究対象。施設のけものも各家庭のペットも研究対象。

Ⅰ－C　調査方法

マンガ・絵本・小説・写真集・新聞・インターネット・DVD・TV・映画などのメディアからの情報収集、フィールドワーク、身近な人への聞き取り調査。「現代日本語」という研究テーマの枠はあるが、比較の意味で海外のけものや、現代以外のけものの名前も調べる。

Ⅱ－A　けもの命名学による名前の分類

(○数字＝各型の名称、●＝各型の説明、○＝各型の名前の例、→＝補足・特徴)

①数字・日付型

●数詞、誕生日など数字に由来する名前や数字が名前に含まれていることが特徴。表記は漢数字、算用数字、カタカナ、ひらがななど問わない(表記については別の章でふれる)。

○はっちゃん、ななちゃん、きゅうちゃん、ジュラ(July 生)ちゃん、ロイロ(6/16 生の語呂合わせ)、ハチ、ツヴァイ(独語で「2」の意)、イブ子(クリスマスイブから飼育)、ハム三(ぞう)・ハム四郎(それぞれハムスターの三男・四男)、テンちゃんなど

→数字と日付を同類にしたのは、連想ゲーム的に日付から数字を連想したため。

→「忠犬ハチ公」の「ハチ」は、飼い主の大学教授が飼った8番目の犬だから、座る姿が八の字みたいだったから、などと言われている。映画『HACHI 約束の犬』(2009)では、飼い主が駅でハチを見つけたとき、首輪に「八」の字があったからという設定。

②イメージ音感重視型

●表記は主に表音文字であること(当て字などは漢字表記もあり)、ユニセックスな名前であること(音を聞いただけではオス・メスの区別が特につきにくい)、名前に意味を持たないことが特徴。「直感で決めた」などインスピレーションによる名前も多い。

○トチ、チャッピ、マヌ、ポンちゃん、ポポ、ポッポ、ポニャ、プル、トト、Fio(フィオ)、ピピ、ペペ、ココ、メメ、ペコちゃん、タマちゃん、フィーなど

→下線があるのはポメラニアン。このタイプのポメラニアンは「ポ」というイメージ?

③オノマトペ型

●擬声語、擬音語などオノマトペをそのまま用いた名前、あるいはオノマトペを交えた名前であることが特徴。メディアや小説ではあまり例がなく、絵本やマンガなどでよく見られる。

○ぴょん太(ウサギの擬音語)、ニャー・ミーコ(ネコの鳴き声)、鼠屋忠吉(ねずみやちゅうきち)(ネズミの鳴き声)、クンちゃん(イヌの鳴き声)、忠太郎(ちゅうたろう)(ハムスターの鳴き声)、キイちゃん(サルの鳴き声)など

→バリーはその名のとおり、でっかいウシをひとりでバリバリ食べてしまうくらいの大食らいだ。(小説『あらしのよるに』P96/きむらゆういち/2006 年発行/小学館)本文中の説明通り、「バリバリ」という擬音語に由来する名前のオオカミ。その他、同作品に主役のオオカミのガブ、ヤギのメイ、脇役のオ

オカミはギロ、ザク、ビッチ、イチ、脇役のヤギはミイ、タプ、モロなどが登場。映画『あらしのよるに』(2005)では、メイがガブの名前を「強そうな名前」、ガブがメイの名前を「優しそうな名前」と互いにコメントしている。

④人名型

●音で聞いただけでは人間の名前と区別がつかないことが特徴。彼氏の名前、芸能人の名前など、実在の人物に由来するもの、シャーロック・ホームズのホームズなど、架空上の人物に由来するもの、名字に由来するものもある。このタイプは更に「人名型Ⅰ(日本人名型)」「人名型Ⅱ(外国人名型)」の2種類に分けられる。「人名型Ⅱ」に関しては、飼い主の母語が日本語でありながらも外国人のような名前が付けられたもの。

人名型Ⅰ(日本人名型)

○あおいちゃん、奈々ちゃん、蔵ノ介、ハナコちゃん、琉威(るい)ちゃん(♂)、モモ、漱石、チエ、リカコ、ケン、山田さん、佐古田さん、小鳥遊(たかなし)くん、北斗など

→メスでもオスの名前のもの(または逆)、オスでもメスでも使える名前のものなどもあり。

人名型Ⅱ(外国人名型)

○ボブ、メリーちゃん、ビリー、SHUWA(シュワ)ちゃん、ジャッキー・チェン、ANDY(アンディ)、ジェーンちゃん、エディ、ベティ、ルドルフさん、ありす、ポアロ、ウィリー君など

→ここではレイカなどカタカナ表記でも響きが日本人名である名前は「人名型Ⅰ」、十夢(とむ)、のあ、雀尊(ジャクソン)など漢字・ひらがな表記でも響きが外国人名である名前は、特別な記載・説明がない限り「人名型Ⅱ」に分類している。「表記による名前の分類」参照。

人名型Ⅲ(番外編)

●愛称型…ニックネームや愛称のような形の名前

○はーちゃん、もっちー、いっちゃん、タッキー、やまさん、HONEY、BABYちゃん、シェリー(仏語で「愛しい人」の意)、姫、王子、プリンス、麻呂、ミスターなど

→先生、将軍など「⑥キャラクター型」(下記)に分類できるものもあったが、

これらは「愛称」というより「敬称」の要素が強いのでここでは省略。またエディ（本来はEdward/Ed-mondの愛称）、ベティ（本来はElizabethの愛称）など欧米ではニックネームとして親しまれている名前は、本来愛称であるはずの形であっても愛称ではなくそのけものの本名であることが多いので、ここでは「愛称型」でなく「人名型Ⅱ」に分類しておくことにする。

●ハーフ型…２ヶ国以上の人名を合わせたような名前

○チャーリーさすけちゃんなど

⑤身体的特徴型

●体毛の色や模様、体の大きさ、目など外見の特徴に由来することが特徴。

○九六（くろ）・くーちゃん・漆黒ちゃん(黒い毛)、シロ・Usako（ウサコ） Whity（ホワイティー）ちゃん・ユキ(白い毛)、チャロ(茶色い毛)、まめ・チビ太・チビ(小さい)、ミケ・ぶち・たび(模様)など

⑥キャラクター型

●「内面的にこうなって欲しい」などの思い、飼い主の好きなものやエピソード、そのけもの自体のキャラクター・性格などに由来することが特徴。

○ツンデレ、狡猾、アバ(暴れて元気だから)、ニュウ(新入り)、アポロ(アポロチョコが好き)、本気（マジ）(強く逞しくなって欲しい)、シャネル(飼い主がシャネル好き)、シャイ、教授、メグちゃん(そのネコが家に来てから吉事続きで恵まれた)など

⑦種族由来型

●種族(イヌ・ネコなどの違い)や種別(柴犬・ヒマラヤン・MIXなど)に由来することが特徴。イメージキャラクターやマスコットは主にこのタイプに属し、「③オノマトペ型」同様メディアでは小説よりも絵本・マンガなどに多く見られる。

○LISMO（リスモ）(リス)、リラックマ(クマ)、HELLO KITTY(kitty)、モモちゃん(モモンガ)、ラビ(rabbit)、ラブちゃん(ラブラドール)、ハリー・針平（はりぺい）(ハリネズミ)、ろんち(ロングコートチワワ)、蒼（あお）(ブルーサファイア)、ハム次（つぐ）(ハムスター)、モル(モルモット)、犬（けん）・犬（いぬ）(イヌ)、フェレ蔵(フェレット)、たぬ吉(タヌキ)など

⑧飲食物型

●(人間の)飲食物(に由来する)、あるいは名前に飲食物が含まれていることが特徴。加工食品でない物は、「⑨植物型」(下記)にも分類されるものが多い。
○ショコラ(仏語で「チョコレート」の意)、チョコ、サシミ、ココア、ミルク、ミルキー、モカ、マロン、ぴんきー、ウォッカ、ラテ、キャンディ、チェリー、おもち、ピノなど

⑨植物型

●植物(に由来する)、あるいは名前に植物が含まれていることが特徴。
○ハナちゃん、ファーちゃん(中国語で「花」の意)、葛葉(くずは)、ローズマリーちゃん、ぱんじぃ、李(すもも)、花子、蘭丸、さくら、草太(そうた)、蓮華、菊麻呂、ローズ、種ちゃん、ミントなど

⑩無形物型

●無形物の名詞や形容詞をそのまま名前にしたもの、あるいは無形物に由来するものであることが特徴。「人名型」に分類できるものもあり。
○愛ちゃん、ラブちゃん(love)、アモ(西語アモールより・「愛」の意)、福ちゃん、永遠(とわ)、ラッキー、ハッピー、PEACEクン、楽(らく)、トミー(「富」)、ラック、来夢(らいむ)、倫理など
→その他、音楽・星・地名・衣類・色・宝石などに由来する名前も多くあり、ここに紹介したのは一部。ネコをクマ、フェレットをパンダと命名するなどの「エセ種族由来型」、ブラックライト嬢(闇の/光)、My melody(My/melody)などの「複数単語型」などもあり。

Ⅱ－B　特徴的な名前

◎宝くじ売り場、及びその付近にいるネコ

●「宝くじねこ」「開運ねこ」「当選ねこ」「福猫」「宝当猫(ほうとう)」「ご利益ねこ」「福招き猫」「招きねこ(本来の「招きねこ」の意味とは異なる)」などと呼ばれるネコ。特徴として、主に「宝くじに当選する」「運を引き寄せる」などの意味を込めて命名される。
○かねちゃん…佐賀県唐津市の宝当神社近くに住むネコ。「お金」から命名されたのではなく、「果報は寝て待て」が名前の由来。背中に「宝」の字に見える模様があると評判。

○福ちゃん…かねちゃんの兄弟のネコ。かねちゃんと同じくご利益があるらしいネコ。
○宝ちゃん…かねちゃん兄弟の近くにいるネコ。頭を撫でると良いらしい。
○当(あたる)くん…宝ちゃんの兄弟のネコ。この当くんと上記の宝ちゃんに関しては、それまで子供ができず悩んでいたある夫婦が、この２匹を抱いたところ、それからすぐに子供ができたという話がある。「当たる」だけでなく子「宝」も授かる？

◎競走馬

●２字以上９字以内(ただし参考文献『名馬牧場めぐりガイド』には、文献自体が古いためか10字や11字の名前の競走馬が紹介されている)のカタカナ登録が決まりで、一般のペットや動物園の動物より比較的長い名前であることが特徴。ラテン語、仏語、中国語、アイヌ語など多種の外国語も使用されることがある。競走馬の名前で券の買い方を決める人もいるため、呼びやすさや親しみやすさを求められるペットに比べ、インパクトのある名前が求められるようだ。

○ディープインパクト、ネオユニバース、レディ・ルージュ、ワンカラット、ロジック、ラグビーボール、モエロオレノコスモ、ヴィータローザ、ブラックタキシードなど

◎動物園のパンダ

●日本の動物園のパンダだけでなく、海外の動物園のパンダも漢字２字の表記が基本であるが規則ではなく、漢字３字やアルファベットの綴りのみのパンダもいる。日本の動物園のパンダは発音が中国語であったり日本語であったりするが、中国以外の動物園のパンダも発音は中国語。また、現段階では韓国の動物園にはパンダはいないらしく、将来パンダが入園するとすれば、発音は中国語・韓国語・日本語のどれになるのかは見もの。映画『パンダフルライフ』(2008)では、中国の動物園に行った日本の動物園のパンダが、中国人に名前を中国語の発音で呼ばれた(日本では日本語の発音で呼ばれていた)ため、自分が呼ばれていると気づかなかったというトラブルも発生。

○愛浜(アイヒン)、隆浜(リュウヒン)、良浜(ラウヒン)、明浜(メイヒン)、梅浜(メイヒン)、幸浜(コウヒン)、永浜(エイヒン)、雄浜(ユウヒン)、陵陵(リンリン)、永明(エイメイ)、康康(カンカン)、蘭蘭(ランラン)、飛飛(フェイフェイ)、歓歓(ホアンホアン)、悠悠(ユウユウ)、梅梅(メイメイ)、興興(コウコウ)(中国名:龍龍)、旦旦(ダンタン)(中国名:爽爽)

など
※文中のけものが呼び捨てであったりなかったりする(○○ちゃん、○○くんなどの有無)のは、飼い主の表記や呼び方に正確に基づいた結果による。映画『TAJOMARU』(2009)では、上司のウマの世話係が、「○○様」とウマに対して敬語を使う姿が印象的であった。

Ⅱ－C　複数の型に分類される名前

前章「けもの命名学による名前の分類」→(補足・説明欄)で若干触れているが、けものの名前によっては２種類以上に分類出来る名前も多数ある。例えば、私の友人がオスのモルモットを１匹飼っている。彼は「きなちゃん」と命名されているが、その名前の由来を名付け親である友人に聞くと、彼女いわく「毛がきな粉色（彼の体毛は黄土色・黒・白の三色で、中でも黄土色の毛の面積が広い）だから。」だそうである。この場合「きなちゃん」という名前は、けもの命名学の観点から分類すると、体毛の色から命名された点より「⑤身体的特徴型」、また「きな粉」という調味料に基づいて命名された点より「⑦飲食物型」の２種類のタイプに該当することが分かる。

また、前章で例に挙げた名前の中で、「響きは同じでも、複数のタイプに登場する」ものの記載があった点にお気づきだろうか。例えば、「ラブちゃん」という名前のけものが前章に登場している。この「ラブちゃん」、「ラブラドール」という血統（あるいはその血筋）から命名されたイヌである場合は「⑦種族由来型」、「愛しているから」などという思いが込められて命名された場合は「⑩無形物型」に分類されている。その他、特に記載はしていないが、仮に「数字の０をラブと読んで」など数字に基づく場合は「①数字・日付型」、「my loveの意味を込めて」など愛称に基づいて命名された場合は「④人名型（愛称型）」、「ラブリーだから」などそのけもの自体の特徴に由来する場合は「⑤身体的特徴型」や「⑥キャラクター型」などにも分類することが出来るだろう。

すなわち、複数の型に分類される名前には、①１匹のけものの名前が複数の由来を持つ場合②響きが同じ１つの名前がその由来によって変わる場合、の２通りがあるといえる。この章では、①②それぞれのケースについて、簡

潔に述べることにする。

①１匹のけものの名前が複数の由来を持つ場合

前章でも述べているが、特に目立ったのが「⑧飲食物型」「⑨植物型」の２種類の型の由来を持つけもの達の名前である。具体的には「りんごちゃん」「くるみちゃん」「山葵」「豆太」「バジル」など、食事が可能な植物の名前は基本的に全てこれに該当し、主に果物、野菜、海藻類、ナッツ類、豆類、調味料などであることが圧倒的である。

また、上記の「きなちゃん」のように、体毛の色から飲食物を連想する人も珍しくなく、「⑤身体的特徴型」に加えて、「⑧飲食物型」あるいは「⑨植物型」にまたがる由来の名前も多数あることが、調査の結果判明した。

その他例が多く見られたのは、マンガ『世紀末リーダー伝たけし！』（第５巻/P10,12/島袋光年/1998 年発行/集英社）に登場する「ダンディーくん」「ボッスィーくん」など、外見の特徴と性格の特徴に共通点が見受けられる名前では「⑤身体的特徴型」「⑥キャラクター型」両方の型の特徴を兼ね備えている場合、「ココ」「ララちゃん」「チコ」「リィ」「リムド」「らん」など「②イメージ重視型」と「④人名型」の区別が付きにくい名前である場合、「小泉総理」「竜馬」「エリック」「トム太」「ロビン」「Vivien（ヴィヴィアン）」「桃太郎」などけものの持つ性質や特徴からある人物を連想した結果「⑤身体的特徴型」や「⑥キャラクター型」が「④人名型」に繋がる場合、「葉月」「かんな（神無月より）」「もも」など「①数字・日付型」に由来する名前の響きを「人名型Ｉ」風にした場合などのケースが目立った。無論、ここに紹介したケースはほんの一部であるが、多いものでは４種類以上の型に分類できる（私中川の独断による分類ではなく、飼い主が複数の意味を込めて命名するケース）名前も確認済みである。

②響きが同じ１つの名前がその由来によって変わる場合

前ページの「ラブちゃん」などはその代表的な例であるが、その他前章の例の中でも「ななちゃん」は「①数字・日付型」と「人名型Ｉ（奈々ちゃん）」の２種類の型に登場する。この場合、前者は7月生まれの「ななちゃん」、後者は漢字表記にして人名のように命名した「奈々ちゃん」である。前章以外の例では、「インスピレーションで決めた」「特に意味はなし」など「②イメ

ージ重視型」に分類できる「なな」も聞き取り調査で確認できた。

その他、「家に来たとき(そのネコが)あんーと鳴いたから」命名した「③オノマトペ型」の「あん」・ジャンガリアンハムスターである「⑦種族由来型」の「アン」・「行灯の油を舐めるような化け猫を想像させる白黒の体毛の日本ネコ」の「⑤身体的特徴型」の「あん」、など3タイプの「あん」、ロングコートチワワの「⑦種族由来型」の「ロン」・小説『ハリー・ポッター』シリーズ(J.K.ローリング著/松岡佑子訳/1999年第1巻発行/静山社)の登場人物ロン・ウィーズリーから命名した「人名型Ⅱ」の「ロン」・「強く育って欲しいという思いからstrongのロンを取って」命名された「⑥キャラクター型」の「ロン」、など3タイプの「ロン」など、多様の意味を持つ名前=響きが単純である名前であることが多い、と判明した。

ペットや動物園の動物は、一般的に親しみやすさや呼びやすさを追求した名前が好まれるので、それは言い換えれば「単純な響きの中に、いかに(そのけものの名付け親が)意味や思いを込められるか」という点が、けものを命名する際に重要視されるのではないだろうか(無論、7字以上など長い名前を好む名付け親も若干いた)。この②のケースに関しては、2～3字の名前が圧倒的で、調査の結果4字以上に及ぶ名前は少数であった。

ⅡーD　ペットのニックネーム

ペットを飼う人達の中には、既に命名された本名とは別に、わざわざペットにニックネーム(あだ名)を付けて呼ぶ人達が存在する。かくいう私もその一人である。そこで、本名とそのニックネーム、またニックネームが本名に由来しないペットの場合はそのニックネームを付けた理由(分かるもののみ記載)を調査することにした。次ページからの表はその主な例であるが、例を挙げる前に確認しておきたい点がある。

まず、ニックネームは大きく分けて「Ⅰ本名由来型」、「Ⅱ本名無関係型」の2通りに分類できる。「Ⅰ本名由来型」は、本名に由来する一字以上を取り入れたニックネームで、特に本名と大きく異なる点はなく、本名に由来するニックネームである。「Ⅱ本名無関係型」は、本名に基づいていないニックネームで、具体的にはそのペット自身の身体的特徴やキャラクターに由来す

るニックネームである。

本名「○○」に「ちゃん」を付けて「○○ちゃん」など本名を呼び捨てで呼ばないものをニックネームと称する飼い主もいるが、この章ではそのような例をニックネームではなく本名と考え、この章では調査対象外。「はっちゃん」「いっちゃん」など「ちゃん」「くん」などを切り離して呼べないペットは、それらを含めて本名と考え、この章では調査対象外。

ちなみに、この章でニックネームの調査対象とするけものを「ペット」と限定しているのは、動物園の動物など各施設のけものや、各メディアに登場する架空上のけもの達は、大勢の人々の目に触れているにも関わらずニックネームで呼ばれるシーンがあまり見られなかったためである。しかし、「My melody」を「マイメロ」、「HELLO KITTY」を「キティー」「キティーちゃん」、「たれぱんだ」を「たれぱん」、「ポムポムプリン」を「ポムプリ」などと略した形で言うなど、マスコットやイメージキャラクターに関しては愛称的なものも度々耳にしたことがあるので、その点を予め踏まえた上で「ペットのニックネーム」についての記述に進むことにする。

ペットの本名	Ⅰ本名由来型	Ⅱ本名無関係型	Ⅱの理由
チューチュー	チュー、チューさん、チューしゃん、チューちゃん、ちゅる、ちゅるんちゅるん、ちゅっちゅくちゅ	①フワフワ②甘えた③チビさん④チビしゃん⑤赤ちゃん	①体毛の手触りがフワフワだから②性格が甘えん坊だから(京都の方言？)③④体が小さいから⑤動作や顔が赤ちゃんみたいだから
国光	くにちゃん、くにみっちゃん		
聖(ひじり)	ひじちゃん		
蔵ノ介	くらちゃん、くらりん、くらくら		

雄貴（ゆうき）	ゆきちゃん		
pipi	pipiやん	ぷぷやん、ぷぷ、ぷぷちゃん、うさぎ、お嬢、ワガママ娘、姫	
ケン	ケン子、ケンたま、ケンころ、ちょろケン		
こころちゃん	ここちゃん		
チャッピちゃん	チャーちゃん	わる	悪さをするから
チョコレートパフェ	パフェ、ぱへ		
ヴィヴィアン	ヴィヴィタン、ヴィヴィ、ヴィヴィ助、ヴィー		
ムック	ムックしゃん		
チロル	チーちゃん、チロたん		
ロッシくん	よしくん、ロシナンテ、ロッさん		
マリエちゃん	まりころ、まりちゃん		
瑠璃	るーたん	ぶり、ぶりさん、ぶーたん、肉、お肉様	避妊手術後体がぶくぶく太り始めたから
リーヤく	リーくん、リーきゅん	らぶりん、らぶら	☆めちゃくちゃ男

ん		ぶ、おらぶさま、☆男前	前だから
チャチャ	チャンチャカ、ジャジャ、ジャジャ子、ジャリー、ジャンジャカ	わる	小さいとき本当に悪かったから
乱夢猫（ラムネ）	ラムちゃん、ラムタン	長老	飼い始めて19年なので尊敬の意で
空（そら）くん	ちょら、ちょらりん、ちょんちょらりん、ちょんちょろ、ちょ、ちょろちょろ、ちょん、ちょんちょん	①ぱっぱら②わる	①頭がパッパラパーだから②悪さをするから
海（かい）くん	海りん	①でぶりん②将軍③甘えん坊将軍	①②去勢してから体が太ったから③性格が甘えん坊で体が太っているから
ムース	ムム、ムーちゃん	①熊②熊さん③猿④黒いの	①②体がクマに見えるときがあるから③口元がサルに見えるときがあるから④理由不明、怒るときに
リリ		①ぷー②ぷーちゃん③うめぼし③はなお	①②体がぷりぷりしていたから③鼻がピンクでうめぼしみたいだから③理由不明

バジル		①トトロ②ジブリ	①②最近太り出したから
大豆（だいず）	おおまめ・まめ		
小豆（あずき）	こまめ・まめ		
のんたん	ノンちゃん		
シェーラザード	シェーラ		
りょう	りょうすけ	①姫②お嬢	①②メスなので、機嫌を取るときに
みの吉	みのきっつぁん		
ハム公	ハム、ハムハム		

以上、一部のペットとそのニックネームを確認すると、「Ⅰ本名由来型」は発音と表記のどちらか片方、あるいは両方に由来するものがあることが分かった。比較的多かったのは、「本名の最初の２～３字」（＋「たん、さん、しゃん、ちゃん、くんなどの形」）という構成パターンである。「Ⅱ本名無関係型」では、大抵の場合本名に求められる「呼びやすさ」や「親しみやすさ」を必要としないような形も多々あることが分かった。どちらの型にも共通して言えることは、イメージキャラクターやマスコットなどに比べて使用される範囲が小規模であるということである。飼い主やその家族、身近な友人・知人がその限度で、ホームページやブログなど公共の場に登場するペットでも、大抵は規模が限定的であった。

参考：家でもできるミニ実験

私が卒業研究を進めるにあたって、この「ペットのニックネーム」という章を設けた最大の理由は、「大抵のペットは自分の本名を人間に呼ばれると振り向くだろうが、人間がそのペットにあだ名を付け、そのあだ名でペットを呼んだ場合、ペットは混乱しないのだろうか？」という疑問があったためである。すなわち、「自分のことを指す呼称が複数あった場合、その全てに反応を示すのかどうか」という疑問である。ここに記述する実験は、家庭でペッ

ト(哺乳類動物以外での実験も可)を飼っている人なら、誰でも出来る簡単な実験である。家庭内にペットがいないという人は、ペットを飼っている身近な人の家庭や、仮名を付けて呼んでいる野良のけものに置き換えても類似の実験が出来る。

また、テレビ番組『天才！志村どうぶつ園』(2009年放映)では、メスのリスザルの赤ちゃんを命名の際、いくつか名前の候補が挙がったが、彼女は「キイちゃん」という名前にしか反応しなかったのである。彼女自ら、付けて欲しい名前を選んだかのようにも思える。

人間ならば、自分のことをファーストネームで呼ばれようがラストネームで呼ばれようが、複数のニックネームで呼ばれようが、それが自分のことだと知っていれば全てに反応するだろうが、人間ではないペット達は全ての呼び方を「自分のことを呼んでいる」と認識しているのだろうか。

少々音声学的な実験にはなるが、「ペット達は人間の音声をどのように認識しているか」ということを証明する実験として結果を記録する。自宅以外のペットは、実験結果が分かったもの(飼い主などが実際に試してどうなったか分かるもの)のみ記載する。

※ペットとして飼っている人がいるかどうかは分からないが、私は数年前「人間がフェネック(イヌ科キツネ属の動物)を本名で呼んでも振り向かない」とテレビ番組で実験しているのを観たことがある。そのような「自分の本名にすら反応しない」というペットは実験対象外。この実験では「自分の本名に反応するペット」のみ取り上げる。

※先の表に登場するペットに実験対象を絞る。

実験方法

ペットを本名以外の呼び方で呼ぶ。振り向く、こちらに向かって鳴く、など反応があれば「違う呼び方でも自分のこととして音声面での認識あり」と考える。

実験結果は、下の表の通りである。

ペットの本名	ペットの種族	反応するあだ名	反応しないあだ名

チューチュー	フェレット	チュー、チューさん、チューしゃん、チューちゃん、ちゅる、ちゅるんちゅるん、ちゅっちゅくちゅ、チビさん、チビしゃん	フワフワ、甘えた、赤ちゃん
瑠璃	ネコ	るーたん、ぶり、ぶりさん、ぶーたん、肉、お肉様	
空(もも)くん	イヌ	ちょら、ちょらりん、ちょんちょらりん、ちょんちょろ、ちょ、ちょろちょろ、ちょん、ちょんちょん	ぱっぱら、わる
リリ	イヌ	うめぼし	ぷー、ぷーちゃん、はなお
大豆(だいず)	ネコ	おおまめ・まめ	
小豆(あずき)	ネコ	こまめ・まめ	

自宅のフェレット「チューチュー」に関しては、「チ」から始まるニックネームにのみ反応した。また参考HP『ペット名付け大作戦！』の飼い主コメント欄によれば、大豆と小豆は姉妹で同じ家庭に飼われており、「まめー！」と呼ぶと２匹同時に寄って来るらしい。同HPでは、前ページ「キイちゃん」のように、オスのハムスターを「ちゅー太」と呼ぶと振り向いたのでそう名付けた、という記載も確認出来た。

また、それでは「チ」で始まる呼び方なら別の名前でも反応するだろうかと、チューチューを「チ」の付く別の名前で呼んでみたところ、「ニックネームとは別にわざと名前を違えて呼んでいる」ということが分かるのか、あるいは「自分のことを呼んでいるとは思っていない」のか、どの名前にも反応を示さなかった。呼んでみた名前の具体例は、①「チサちゃん」「チエミ」「チカコ」など名前の最初に「チ」が付く名前②「マチコ」「サチヨ」など名前の中央に「チ」が付く名前③「ダイチ」「ライチ」「サチ」「ミチ」など名前の最後に「チ」が付く名前、の３通りである。

これら全ての名前に反応しなかった点から読み取れるのは、すなわち「ニ

ックネームで「チ」が付くものは自分のことであるものだが、明らかに自分の本名ではない名前は自分のことではない」と、我々人間の認識方法に非常に近い認識を持っているという点である。も「フワフワ」「甘えた」「赤ちゃん」など最初に「チ」が付かないニックネームに反応しなかったのは、単に「音声面での認識がない」と考えられるが、「チ」の付く別の名前に反応しなかった点に関しては、音声面での認識のみならず、「意図して別の名前で呼んでいる」もしくは「飼い主が何か話しているが、自分を呼んでいるわけではない」という観念的な面での認識もあるといえる。

チューチュー他、表に連ねたペット達は皆、無論聴覚が正常に機能しているが、聴覚に障害があるペットは自分の名前やニックネームを呼ばれて反応するのか、また反応するとしたら何を基準に反応するのかということは、残念ながら身近に聴覚に障害があるペットがいなかったので確認出来なかった。

Ⅲ－A　種族による名前の分類

イヌとネコで同じ名前の者がいたり、それぞれ別の家庭で飼われているハムスターとウサギが同じ名前であったり、種族は違えど彼らは同じ名前である、という例が少なからず見られる。そもそも、「けもの命名学による名前の分類」の「④人名型」で取り上げた通り、人間とけものの区別が名前では付かない、ということが多々あるのはいうまでもない。

ペットとして飼われているけものは主にイヌ、ネコ、ハムスター、フェレット、ウサギ、リス、モルモット、モモンガ、ハリネズミ、プレーリードッグなどであるが、それ以外のけものにもコアラの「ミライちゃん」（http://news.walkerplus.com/2009/0709/18/参照）やオランウータンの「モモちゃん」（http://orangutansmomo.blog105.fc2.com/category3-1.html 参照）のように、動物園の動物にもペット達と同様の例が見られた。すなわち、ペットであるか動物園の動物であるかという区別、及びそのけものの種族が何であるかは、名前しか確認出来ていない状態では判別出来ないということである。あるいは前述のように、「④人名型」のけものであれば、それが人間かけものかという区別すら出来ないという可能性も有り得る。

しかし、「⑦種族由来型」に限っては、「キティー」という名前はネコ以外

に例がなかったり、「ラビ」あるいは名前の最初に「ラビ」が付く名前はウサギに使用範囲が限定されていたりと、名前を聞いただけで種族の予想が付くものもあった。その他には、一般的に「ハム」あるいは「ハム」が最初に付く名前はハムスター、「モル」あるいは「モル」が最初に付く名前はモルモット、「針」が最初に付く名前はハリネズミ、などの例が目立った。また、ハリネズミではその身体の針が人間のスパイキーヘア(短髪を立て、その先を尖らせた髪型)を連想させるためか、「パンク君」という名前も確認出来た。これは髪型をスパイキーヘアにしている主な人物像が、パンクミュージックを扱うアーティストのイメージであるためと考えられるが、なぜか「パンクちゃん」、つまり「パンク」という名前のメスの例は見当たらず、ハリネズミの中でも「オスのハリネズミ」のみに限定されるようであった。「リズム」「メロディー」「ロック」など音楽に関連した名前は他のけものにも多数例が見られたが、この「パンク」は他のけものでは少数であり、更にハリネズミは「とんがりちゃん」「たわし」「棘姫」「うに」「剣山君」など特徴的な名前が目立った。

また、「ピーター」は、「ピーターラビット」に由来する名前であるが、これもオスのウサギにのみ例が見られた。「人名型Ⅱ」に分類される名前なので、ウサギ以外にも例があるのではないかと思ったが、「人名型Ⅱ」の中でもあまりメジャーな名前ではないらしい。また、ウサギの中でも「オスのウサギ」に限定されるのは、無論「ピーター」が人間の男性の名前であるためと考えられるが、男性の名前であってもメスにその名前が付いているなどというような、他の名前で見られたような現象は、この「ピーター」という名前には見られなかった。

その他どの種族にも人気が高かった名前は、参考HP『アニコム調べ　第5回猫の名前ランキング2009』(http://news.jprpet.com/news-bin/Detail)、『犬の名前ランキング　ペット(犬)の豆知識』(http://www.e-nioi.jp/event/mamechisiki/namei.html)を参照。

その他詳しいランキングは「モモ」「マロン」「レオ」「ナナ」「サクラ」「チョコ」など、イヌ・ネコ双方に人気のある名前が上位を占めていることが分かる。これらの名前は、無論ハムスターやフェレットなど別の種族のけもの

にも多くの例が見られ、動物園の動物の名前にもよく用いられる。「マロン」や「チョコ」といった、外来語から発生した名前は、無論外来語が日本国内に普及してから愛されるようになった名前なので、戦後徐々に浸透した、近代を象徴する名前だといえる。人気の名前というものは、その種族を選ばず、広く万人に愛されるようである。

また限定されるわけではないが、動物園のホッキョクグマには「ユキ」「コユキ」「ユキコ」「ユキスケ」など、「ユキ」が付く名前が全国的に見ても比較的目立った。恐らく、ホッキョクグマが本来雪国で暮らす習性を持つためであろうが、「雪」の意味で「ユキ」が付く名前は、他のけものでは体毛が白いものに多く見られた。

Ⅲ－B　表記による名前の分類

分類に入る前にまず確認しておくべき点は、けものの名前の表記に使用される文字の種類である。中国語、仏語、独語、西語、タイ語、ラテン語など、英語以外の外国語も多々例があったが、表記に使用される文字で確認出来たのは、漢字、ひらがな、カタカナ、アルファベットの４種類であった。スペルはそれぞれの外国語のものであったので、本来アルファベットでないはずの箇所は、アルファベットを故意に使用したのか、パソコンの変換機能に限界があり、似た文字であるアルファベットしか使用出来なかったのは定かではない。ペットであるけもの達だけではなく、ホームページ『JRA ホームページ』(http://www.jra.go.jp/datafile/resist/pdf/2yo_name.pdf)では、一般家庭のペットより更に外国語の種類が多い競走馬の名前でも、カタカナとアルファベットのみの表記しか公開していなかった。「ワカオカミ」「モエロオレノコスモ」などは、漢字やひらがなに直せそうなものでも、競走馬はカタカナ表記が規則なのでカタカナのみの表記しか公表されていなくても不思議ではないが、私個人の意見としては「アルファベットではないものをアルファベットにすると反対に読み辛いのではないか」といったところである。ちなみに競走馬の名前は全体的に確認したところ、中国語、韓国語などアジアの外国語は見られず、一般的に欧米の外国語、あるいは日本語で命名することが好まれているようである。

また、漢字では中国語でしか使用されていない文字はペット、動物園の動物、マスコットキャラクター、その他各メディアに登場するキャラクターの全てに例が見られず、日本の常用漢字とされている漢字のみ使用が確認出来た。ただし、動物園のパンダのように、日本でも中国でも普段使用されている漢字は、発音のみ中国語というケースも、ペットでも多く確認出来たが、韓国語の発音で名前を読むけものは確認出来なかった。以上の点を踏まえて、各４種類の文字表記の説明に入ることにする。

①漢字

「春子」「鈴」「珀(はく)」「影千代」「由良之助」「水野さん」など「人名型Ⅰ」に分類される名前が圧倒的に多いのはいうまでもないが、「福(ふく)°」「貴茶(KITTY)」「童流(らおる)」「刃龍(バロン)」「天使(そら)」「康汰(こーた)」「和茶(わーちゃん)」「美優(みゆう)」など当て字にしたもの、ルビをあえて通常のものとは変えたものも少なからず確認出来た。発音上「人名型Ⅱ」に分類出来るものは、「亜梨子(アリス)」「樹利亜(ジュリア)」など見方によっては「人名型Ⅰ」にも分類出来るものばかりである。

また、「羽韻(バイン)」「大福」「苺大福」「薔仁羅(バニラ)」「豆」「煮豆」など元より「⑧飲食物型」に分類出来るもの、あるいは本来漢字表記ではない飲食物に当て字をして、いかにも人名風に見せかけたものがあった。これら当て字といえるものは、飼い主コメント欄を見ると、最も多かった理由として「本当の子供のように名付けたかったから」と記載されており、この命名法は愛玩動物とされるけもの達が、「ペット」という概念から「パートナー」「家族」という価値観に変化しつつあることの象徴であるといえる。

その他漢字表記が好まれる理由としては、「日本ネコなので和風の名前にしたかった」などけもののイメージに合わせて命名されるケース、「横文字にだけはしたくない」「珍しい名前にしたかった」など飼い主のこだわりが窺えるケースなどが目立ったが、「格好良い(メスなら可愛い)字を考えていた」などポジティブな意味で付けられたものとは反対に、「格好良すぎない名前にしたかった」「横文字だと名前負けしそうだったので」など控えめさをアピールした名前もあった。

その他「皇帝(みかど)」「笑顔」「弁天」「福神」「親分」「村長」など「⑥キャラクター型」に分類出来るものもあったが、この漢字表記のキャラクター型は尊

敬の意味を込めて命名されたものが過半数であったことが印象強く、他３種の文字表記の名前よりも一見近寄り難い、崇高なイメージが強かった。

表意文字であるという利点をフル活用し、意味を込めて命名出来るのが漢字の名前の特徴である。

②ひらがな

「ひめ」「みっけちゃん」「たっちん」「さすけ」「むさし」「ゆういちろう君」「らんぽくん」など「愛称型」や「人名型Ⅰ」に分類出来るもの、「は～り～」「ちゃこちゃん」「どり～」など響きは「人名型Ⅱ」のようだがひらがな表記であるもの、「ゆゆ」「ちっちちゃん」「こたちゃん」「ざびちゃん」「ふうちゅうちゃん」「やんやんくん」など「②イメージ重視型」で響き重視のもの、「みるく」「まろん」「ひじき」「りんごちゃん」「ぽてとくん」など、本来漢字、カタカナ、アルファベット表記であるものをひらがなに直した「⑧飲食物型」のもの、「まんまるくん」「あくび」「くにゃくにゃ君」など「⑥キャラクター型」のものなど、各タイプにまんべんなく例が見られたのがひらがな表記の名前である。

漢字表記の場合は表意文字独特の格好良さや読み方による個性、女の子らしさなどが求められたが、ひらがな表記の名前の場合、表音文字特有の可愛らしさや見た目の優しさ、親しみやすさなどが重視されていることが分かった。その証拠に、同じ「愛称型」の名前でも、漢字表記の「愛称型」のような堅さや近寄り難さはなく、「姫」だと人間の上級貴族のような高貴なイメージが強いが、「ひめ」というひらがな表記になると、「ごく普通の可愛らしい女の子」という印象を受ける。

また、ひらがな表記の名前の場合、漢字表記のように読み方で悩むこともなく、絵本や児童書に登場するけものなどは仮名表記であるように、「読みやすさ」という合理性も兼ね備えている。動物園のパンダ以外のけものもそうであることからして、動物園で公募から命名される場合、幼児でも読めるように仮名表記である名前が優先的に選ばれるのかもしれない、と私は研究を進める上で考えるようになった。動物園という場所は幼児も大勢訪れる施設なので、推測だが有り得なくはない。

更に、サンリオのマスコットキャラクター「HELLO KITTY」のグッズで、

京都限定の地方シリーズを見かけたことがある。その商品には本来アルファベット、もしくは「ハローキティ」のカタカナ表記であるはずのところが、達筆らしい縦書きで、「はろうきてぃ」と草書体のひらがな表記で書かれていた。キャラクターである白いネコは、舞妓風に和装をしており、「京都らしさ」「和風っぽさ」が溢れ出ている見事なパッケージであった。このように、他府県や外国からの観光客のイメージをより濃いものに結び付けるため、また他の名所にはないような個性的なお土産として売れ筋商品にするためなど、キャラクターグッズの場合、効果的にひらがな表記を活用されることもあると分かった。このようなことが可能なのは、ひらがな表記独特の利点であるといえる。

③カタカナ

ひらがな表記同様、各タイプに例が多数ある名前がカタカナ表記の名前である。「人名型Ⅱ」では「マーニャ」「ジュリアン君」「ジャン」「ロッキー君」など各国の外国人名の表記をしても自然に見え、響きがこのタイプの名前を無理に漢字やひらがな表記にしたものに比べ、馴染み易いのが特徴である。ただし、人間かそれ以外の生き物かという区別はこの場合付かない。しかし反対に、響きが「人名型Ⅰ」のもので「ナナ」「レイジ君」「サスケ君」「シュウ君」「マサムネ君」「ソラちゃん」などとカタカナ表記の名前があると、一見人間の仮名(かめい)のようであり、故に表記を見ると人間ではないことが容易に読み取れる。これは本来漢字、カタカナ、アルファベット表記であるものをひらがな表記に直すことで人間の名前ではないと分かる、という先程のひらがなの名前の特徴とは、真逆の特徴である。同様に、「チャーシューちゃん」「キムチ」「ショコラ」「ココナッツ」など、「⑧飲食物型」でも幅広く全世界の食に関わるものを、このカタカナ表記では難なく名前を表せるが、同じものでも「プディング君」と「プリンちゃん」、「マーブル」の模様から「マーボー」と命名するなど、外国語風の発音を忠実にカタカナにしてみたり、反対に普段日本で使用される外来語風の発音をそのまま名前にしてみたりと、名付け親の遊び心によって自由に表現出来るのがカタカナ表記の名前特有の利点の一つである。

また、カタカナ表記の「⑥キャラクター型」のペットではインパクトの強

さを追求した、一度聞くと忘れられないような名前のものも目立ち、「イタズラ」「ハードゲイ」「ダッタラタ・ベルナーヨ」など競走馬の名前並みに長い名前のもの、「これが名前なのであれば、少しかわいそうだ」と感じるものもあった。このカタカナ表記の名前に限っては、他のタイプに分類される名前でも、必ずしも呼びやすさは求められないようであり、競走馬のように長い名前も珍しくはなかった。

大抵の外国語の発音が最も容易に表現出来るのがカタカナ表記の発音であり、また呼びやすさが重視されない分自由度が高いのがカタカナ表記の名前の特徴である。アルファベット表記の名前よりも外国語の種類が多く、アルファベット表記では限界のある名前もカタカナ表記では多く見られた。

④アルファベット

「④人名型」では「人名型Ⅰ」でも「MOCO」「Moo」「JIRO」「tommy」、「人名型Ⅱ」でも「EWAN」「alain(原文ママ)」「CREA」「MEG」「Bronson」「COCO」「Robin」など、2タイプの人名型共に芸能人の名前や架空上の人物の名前というものが多く、漢字表記の名前のように新たにオリジナルの名前を生み出したものより、飼い主が好きな歌手やスポーツ選手など、「⑥キャラクター型」の要素を兼ね備えている印象が強かった。

また「Dio(仏語・「神・王様」の意)」「Rudi(独語・「光栄なる小狼」の意)」、「piccoro(伊語・「小さい」の意)、「NIMPH(ギリシャ語・「美少女・乙女」の意)など、外国語であることを利用して別宅のペットに類がないような名前を付けている人も目立った。このように、他のペットと名前が重なることを避けるためであったり、外国語かつ意味のある名前にしたいためという理由で、アルファベット表記が好まれることがほとんどであった。和訳にすると一語で表せない言葉が一語で表せたり、元来日本文化にはない神話や宗教の用語が名前に出来るのがアルファベット表記の利点である。更に、利点であるかどうかは私にとっては疑問であったが、人間には到底付けられないような「PHANTOM(幻・幽霊)」「TUBBY(太っちょ、ずんぐりした)」「WODDLES(よたよた歩き)」「WIMPY(弱虫な)」などマイナスイメージの名前がプラスイメージの名前に劣らず、積極的に命名に使われているという事実が発覚した。これは私にとっては驚愕の事実で、例えば愛犬に「死」

「苦」「病」「悪」「霊」「魔」などマイナスイメージの漢字を名前に使用する人など見かけたことがないが、これらと同じレベルの単語が、アルファベット表記の名前には容赦なく使われているのである。海外の映画『ビバリーヒルズチワワ』(2009)では「Diablo(悪魔)」という名の悪役のドーベルマンが登場するが、そのような海外のけものの命名の文化が日本にも影響しているのか、あるいはそのような経路は無関係に、日本語母語話者が「格好良い」「珍しい」「強そう」などプラスイメージと捉えてペットの命名に利用しているかは不明である。ただし、このように意味合い的に人間には付けられない名前がペットには付けられる、という点はこのアルファベット表記の持ち味であるかもしれない。

また、「Bushi」「HANABI」など日本語の単語をあえてアルファベット表記にした名前も数例あったが、漢字表記では有り触れたイメージになりがちなことに対し、アルファベット表記にすると響きは有り触れていそうでも新鮮、斬新なイメージになる。一見ありがちな名前であれど、表記がアルファベットであるというだけでそのイメージが一新されるので、先程のカタカナの単語を漢字にする、あるいはカタカナの単語をひらがなにするなどのイメージの変え方とは逆の、近代的、国際的な印象に繋がる。

→以上、4種類の文字表記についてそれぞれ簡潔にまとめたが、その他複数の文字を交えた「デコの長い人」「たら子」「でか丸」「ハム太郎」「オルティア無限 HONDA」「ミルショビッチ・S・サニー」「ゴン太君」など、意識的に文字を複数使用した名前も多数あった。このように多種の文字を名前に出来るのは、けものを命名する際の醍醐味であるといえる。人名ではせいぜい「まゆ美」「みよ子」「チヨ子」など「ひらがな＋漢字」「カタカナ＋漢字」表記の形のものや、ハーフの名前などでごく稀に目にする程度であるので、けものの名前表記ほど自由度が高くはない。人名とけものの名前の表記で大きく異なる点である。また CM モデルのけものの名前は、アイフルの元モデル「くぅ～ちゃん」、ソフトバンクのお父さん「カイ君」、アルパカの「ハナちゃん」など発音・表記共にシンプルな名前で親しまれることが多いようである。

Ⅳ　架空のけもの・実在のけものの名前比較

架空のけもの、すなわち小説、絵本、マンガ、アニメ、実写でない映画、マスコットキャラクターなど二次元世界のけものの名前は、ペット、動物園の動物、CM モデルのけものなど、実在する三次元のけものの名前とどのように違うだろうか。

名前の分類に関しては、表記の面では実在するけものの方が多種多様である。二次元世界のけもの達には、「ひらがな＋漢字」「カタカナ＋漢字」「ひらがなのみ」「カタカナのみ」「アルファベットのみ」という名前表記が見られた程度で、前章同ページで挙げたような３種類以上の文字が使用されている名前はあまり例がなく、子供向けアニメ『とっとこハム太郎』(2000 年放映)などタイトルで見られる程度であった(実際のキャラクター名は「ハム太郎」)。各メディアでは、単純かつ覚えやすい名前が好まれるようである。

表記に関して更に述べると、前章 13 ページ「①漢字」の文中で挙げたような、漢字を当て字として使用した名前は、私が調べた限りでは皆無であった。ペットの飼い主が「本当の子供のように名付けたい」など、実在のけものは何らかの思いを込めて命名されるが、架空のけものはそのように感情移入をされることがないためではないかと考えられる。また、当然子供向けアニメや絵本、映画などでは「子供でもキャラクターの名前が分かるように」との配慮がされているであろうため、これらのメディアでは漢字表記の名前のキャラクターはほぼ見られない。現代の絵本ではないが、上方絵本『祝言富貴鼠』(江戸時代/作者不明)では、「鼠屋忠吉」「忠右衛門殿」など漢字表記名前のネズミが登場していたので、時代によって好まれるけものの名前表記が変わる、ということもあるかもしれない。現代では、マンガ『NARUTO』シリーズ(1999 年より連載開始/岸本斉史/集英社)に「赤丸」というイヌが登場するが、これも作品の舞台が現代ではないため、当時を象徴するクラシカルな名前として強い印象を受ける。

また、発音・文字・語源に関しては、架空のけものは実在のけもののように古今東西の外国語は使われないようである。ペット、動物園のパンダ、競走馬の名前では、英語を始め、中国語、ラテン語、タイ語、ポルトガル語、仏語、伊語、独語、西語、ギリシャ語、ハワイ語などこの場に挙げただけで

も実に 10 ヶ国語以上に及ぶが、架空のけものに見られたのはせいぜい「Marron Cream(マロン クリーム)」「My melody」「HELLO KITTY」など英語が限度であった。ただし、日本で外来語として一般的に使用されている言葉では、サンリオキャラクター「cinamoroll(シナモロール)」の「モカ」「カプチーノ」「エスプレッソ」など、語源が英語ではない名前も見られた。

また、上記のようにマスコットキャラクターでは「⑦種族由来型」や「⑧飲食物型」の名前がメジャーであったが、絵本では「②イメージ重視型」「③オノマトペ型」「④人名型」、小説では「④人名型」、マンガでは「①数字・日付型」「④人名型」「⑤身体的特徴型」「⑥キャラクター型」「⑦種族由来型」など好まれるタイプ・傾向が各メディアによって違うようであった。無論、メジャーであるというだけで、例えば小説に「③オノマトペ型」の名前のキャラクターが登場するなど作品によってもタイプが異なるが、このような違いは読者層の違いによるところが大きいと予想出来る。

更に海外の架空のけものと比較をすると、「MICKEY MOUSE」などディズニーのキャラクター、絵本「ピーターラビット」など、海外のけものの名前は「人名型Ⅱ」であることがほとんどで、ディズニー映画『ティンカーベル』シリーズ(2008 年より第 1 作目上映開始、現在第 2 作目上映中)では、「チーズ」というネズミが登場するが、このように「⑧飲食物型」など「人名型Ⅱ」以外に分類される名前はあまり例がない。

また、ぬいぐるみについて(子供にも大人にも聞き取り調査をした)、テディベアやウサギ、ネコ、イヌなど「けものの形をしたぬいぐるみにはどんな名前を付けるか」と聞いてみたところ、非常に興味深い事実が発覚した。大抵の人が名のないぬいぐるみには自分で名前を付けるのに対し、「MICKEY MOUSE」や「くまのプーさん」などディズニーのキャラクター、あるいは「HELLO KITTY」などのマスコットキャラクターといった、既に企業によって命名されているぬいぐるみには、自ら進んで改名する、新たに名前を付けるということはしないのである。私個人としては、無論マスコットキャラクターに別の名前を付けるようなことがあってもいいと思うのだが、彼らの脳内では無意識の内に「これはミッキーだ」「これはプーさんだ」というステレオタイプが働いているもかもしれない。ちなみに無名のぬいぐるみには、

主に「②イメージ重視型」「③オノマトペ型」「④人名型」「⑩無形物型」などのタイプが好まれるようであった。外国語や当て字は大人にもあまり好まれず、ひらがなやカタカナ表記で発音も日本語といった、シンプルな名前が愛されているようであった。無生物であるぬいぐるみが命名されるという行為の、理由の一つとして、特に子供の場合「ぬいぐるみを子供やペットのように愛している」という愛情表現であると考えられる。

V　研究あれこれ(まとめ)

⇒けものの名前は、言語・発音・表記・由来など、全ての点において、遥かに人名より自由度が高い。

⇒③オノマトペ型は、海外のけものの名前では未確認。オノマトペは日本語独特の言葉であるためと考えられる。

⇒マスコットキャラクターは覚えやすさやインパクトが求められる。

⇒CM モデルのけもの、架空のけもの、ぬいぐるみは言語・発音・表記・名前の長さ(拍の数)などの点においてシンプルな名前が好まれる。

⇒複数ペットを飼っている人は、「するめ・わかめ・ひらめ」「Luna・Stella・Sol(ラテン語・「月」「星」「太陽」の意)」「リズム・メロディー」「シャンプー・リンス」「まめ・もも・ごま・むぎ・うり・くり」など名前をセットにして付ける人も多い。

まず未開の分野ということもあり、テーマを「動物の名前」としてみたものの、最初は進め方や調査の方法が手探りで困難を極めた。想像していたほど楽ではなかった上に、もう少しページ数も多くなるかと思ったので、この文を読む人は少し「短い」「物足りない」と感じるかもしれない。まだまだ調べきれていない点が多数あるような気もするが、オリジナルな研究が出来たと自分では満足している。

調査をしてみて驚いたことは、まずこれだけ豊富に命名法があることである。こうして改めて文にまとめてみると、人間の名前とは比べ物にならないほどの分類が出来ることが分かった。普段何気なく共存しているけもの達は、名付け親の様々な思いやエピソードなどが込められているのである。そして、映画『TAJOMARU』に登場したウマが「様」付けで呼ばれていたことにも

驚いた。上司に仕える者は、ウマにすら敬語を使わなくてはいけない時代があったのかと、私は今、同じ国に生きている身として、「生きる時代によってこうも文化が違うのか」と衝撃を受けた。「生類憐みの令」など、日本史の授業で「お犬様」という言葉を小耳に挟んだことはあるが、映画を観ながら、その文化が肌で感じられた。

普段から人にペットの名前を聞いたり、動物映画を観たりしていたことは無駄ではなかった。趣味を勉強に出来るというのは最高の気分である。レジュメや卒業研究作成の際には、その手順で苦しむことになるが、悪くない。我が家のチューチューにも、随分世話になった。私の研究の最大の協力者の一人、いや一匹である。彼女がいてくれたおかげでミニ実験が容易に可能となり、また「あれもしたい、これもしたい」と勉強意欲や想像力がかき立てられた。彼女がいなければ、私の研究は今よりもっと視野の狭いものになっていただろう。

参考文献

- 『Doctor's Advice PEPPY CATS2009 年春夏号』P4, 18, 46, 51～53, 56～61, 64, 73～75, 87, 98, 99/ペピイ事業部・全日本獣医師共同組合/2009 年発行/新日本カレンダー株式会社
- 『旭山動物園へようこそ！』P5, 25, 32, 34, 43, 49, 52, 53, 85, 88, 94/文:坂東元 写真:桜井省司/2006 年発行/二見書房
- 『「音の五行」で占うペットの名前』P176～189/幸令奈監修/2000 年発行/世界文化社
- 『ペットのいる暮らし Solomon No. 7』P52, 54, 62, 78, 81, 83, 85, 92～96, 103～106/石津恵三他/平成 10 年発行/マリン企画
- 『CREA cat Spring2009No2』P6～25, 27～31, 34, 50～57, 75～79, 86～98/井上敬子編/2009 年発行/文藝春秋
- 『ぷくぷく天然かいらんばん』第 1 巻/P19, 35, 51, 117/竜山さゆり/2000 年発行/小学館
- 『名馬牧場めぐりガイド 2001～2002』P194～203/制作:新紀元社 堀良江編/2001 年発行/新紀元社

参考 HP

・『ねむねむキュート』 http://www.k3.dion.ne.jp/~nmnmcute/animal.html
・『ペット名付け大作戦！』 http://www.hcn.zaq.ne.jp/feel_at_home/pets/
・『ペットの笑える名前』 http://mikle.jp/zatsudan1/dispthrep.cgi?th=54831&disp=1
・『JRA ホームページデータファイル』 http://www.jra.go.jp/datafile/resist/index.html
・『「宝くじネコ」が人気に』 http://ilovenukonuko.blog5.fc2.com/blog-entry-2.html
・『うちのペット自慢』 http://www.jrt.co.jp/tv/ohayo/c_pet.htm
・『ペットの笑える名前・掲示板』 http://bbs.mikle.jp/threadres/1149254/
・『子猫犬待ち受け画像』 http://konekoinu.seesaa.net/article/37700088.html
・『ペット自慢』 http://ric.shokokai.or.jp/hiroshima/yoshida/pet/pet12.htm
・『パンダ研究所』 http://www.panda.or.jp/
・『楽天市場コンテンツページ』 http://item.rakuten.co.jp/everypet/c/0000000188/
・『ペット自慢コーナー☆Tears of Joy☆』 http://www.tears-of-joy.jp/pet.html
・http://www.1122s.com/dog/colum/wanspo/021129.html
・http://www.petlandjpn.co.jp/jiman/5.htm
・http://www.sbspet.com/pdog/fot/fot478.html
・http://www.nurs.or.jp/~usagi/usagihaitu6.html
・http://kakaku.com/pet/mypet/mypetview.asp?PrdKey=55300210002&Page=2&EntryNo=524
・http://www.sbspet.com/chin/fot/fot259.html
・http://www.h-baby.jp/heart/log/2007/11/post_69.html
・http://pet-nazuna.at.webry.info/200909/article_15.html
・http://pet.benesse.ne.jp/blog
・http://news.walkerplus.com/2009/0709/18/
・http://pc-ntv.biz.biglobe.ne.jp/zoo/aokiguest/20080913/index.html
・http://orangutansmomo.blog105.fc2.com/category3-1.html
・http://pets-kojima.com/sweet/archives/no0002/000047.html
・http://ha2ra2.web.fc2.com/free/free2_4.html

（京都光華女子大学卒業生）